

# 日本人ボランティア・チューターの意識調査

深澤のぞみ・岡澤孝雄

## はじめに

金沢大学留学生センター日本語研修コース<sup>1)</sup>では、金沢大学に在籍する日本人学生からボランティア・チューターを募集して、留学生のための日本事情紹介と日本語学習支援を目的とした活動を週1回開催している。これは、学部や学年を問わずに希望する日本人学生が、ボランティア・チューターとして留学生の教室を週1回訪れ、留学生と共に何らかの活動をしたり、話をしたり、あるいは留学生の日本語学習の手伝いをする、という活動である。この活動は、日本語研修コースが初めて開講した平成7年の第1期から現在平成10年の第7期までずっと継続しており、その都度、募集方法や活動内容なども改良しながら、一定の成果を上げてきた<sup>2)</sup>。

しかし、留学生と日本人学生双方にとって、ボランティア・チューターの活動への参加が意味あるものになるためには、まだ改良する点が多く残っている。特に、ボランティア・チューターの日本人学生の積極的な参加と、さまざまな経験の蓄積は欠かせないものであるが、何期にも渡って参加する学生もいれば、すぐにやめてしまう学生もいる。

そこで、本稿では、これまでこの活動に参加した日本人学生に対するアンケートから、どのような学生がどのような動機で参加したか、また、外国人と話すときの日本語に対する考え方などの特徴を調査し、今後のボランティア・チューター活動の運営や指導の指針とするものである。

## I. ボランティア・チューターの活動の概要

まずはじめに、ボランティア・チューターの活動の目的について述べ、次に、対象となった留学生の属性について簡単に示す。その後で、日本語研修コースにおけるボランティア・チューターの活動の概要について述べるが、前述したように、第1期から現在の7期に至るまで、募集方法や活動内容には多少の違いがある。その点にも触れながら、各期ごとの概要についても簡単に述べていく。なお、今回の調査では第6期までの結果を使用するので、活動の概要も第6期までのものを取り上げる。

## 1. ボランティア・チューターの活動の目的

日本語研修コースに在籍する留学生は、それぞれの受け入れ大学に配属されるまでは、毎日1限から4限まで、6か月間に渡ってずっと日本語の授業に出席しなければならない。その間顔を合わせるのは、日本語教師と留学生仲間、そして留学生課の担当者だけという状態であり、日本人と付き合いたいと思っても、研究室や授業で出会うということもない。またそのような状況では、せっかく授業で習った日本語を使ってみるための機会がないということになる。翻って、日本人学生にとっては、留学生と話してみたいと思っても、なかなかそういったチャンスが少ない。

そこで、日本語研修コースでは、留学生と日本人学生が交流する場を設けており、それがこのボランティア・チューターの活動である。この活動の目的は、先に述べたように、留学生に対しては、じかに日本事情を知ったり日本語を使うための機会を提供するということである。一方、日本人学生に対しては、留学生と知り合ったり、諸外国の情報を得たりする機会を提供するだけでなく、日頃母語として何気なく話している日本語を客観的に見たり、また、語学教師を目指す学生には留学生の前に立つ機会を与える、という目的もある。

## 2. 対象となる留学生の属性

ボランティア・チューターの活動の対象となる留学生は、日本語研修コースに在籍する国費留学生で、日本語学習の経験があまりない学生が中心となっている。

1期から6期まで、対象となった留学生は5, 9, 9, 15, 18, 9名、計55名であった。次に、留学生の性別や年齢などの属性について、表1に示した。

表1 留学生の属性

性別	年齢	留学生の種類	専門分野
男性 37人 (67.3%)	平均 28.9歳	研究留学生 37人 (67.3%)	文系 19人 (34.5%) 理系 33人 (60.0%)
女性 18人 (32.7%)	(21歳から 35歳まで)	教員研修生 18人 (32.7%)	その他 (芸術系や体育系など) 3人 (5.5%)
合計 55人			

まず、性別では、男性が37名(67.3%)と、女性に比べて多い。また年齢は、21歳から35歳までで、平均28.9歳であった。

日本語研修コースに在籍する留学生は、大学院などでの研究を目的とする研究留学生と、自国ですでに現役の教員である留学生が、日本の大学で学校教育について研究を行うことを目的とする教員研修生に分れる。この研究留学生と教員研修生の内訳は、研究留学生が37名(67.3%)、教員研修生が18名(32.7%)である。これは留学生のうち、少なくとも約3分の1が、自国では教員であるということになる。

また、留学生の専門分野では、工学などの理系の学生が60%を占めており、文系は34.5%にとどまっていることがわかる。文系の中では、法学や経済学、国際関係学といった分野が大半を占めている。

次に、国籍の地域別の分布を表2に示す。

**表2 留学生の国籍** (人)

アジア	オセアニア	北米	中南米	西欧	東欧	中近東	アフリカ	合計
31 (56.4%)	2 (3.6%)	0	9 (16.4%)	1 (1.8%)	3 (5.5%)	6 (10.9%)	3 (5.5%)	55

アジアの留学生が55名中31名(56.4%)と多く、次に中南米の学生が9名(16.4%)と続いている。アジアの留学生の国籍は、タイ、インドネシア、フィリピンなどが多い。

### 3. 各期ごとのボランティア・チューターの募集方法と活動の内容

ここでは、活動の概要について、各期ごとに述べていく。

#### (1) 第1期(1995年10月～1996年3月)

募集：口コミで言語学などを専攻する学生に依頼するという方法を取った。

内容：主に日本語学習に遅れがある留学生を中心に、学習した日本語項目の復習や宿題を個人指導したり、話し相手になるという形をとった。

#### (2) 第2期(1996年4月～1996年9月)

募集：口コミの他、学内と学生寮の数箇所にもポスターを貼った。

内容：日本人学生の交流の時間と個人指導の時間の両方を行った。交流の時間には、自己紹介を行った後、日本人学生がゲーム(ひらがなのかるたなど)や歌などを指導した。個人指導の時間は、週3回ほど、毎日の授業が終了したあとに、適宜、留学生の宿題を手伝ったり、話し相手になるという活動を行った。

(3) 第3期 (1996年10月～1997年3月)

募集：特に新たな募集を行わず、1期や2期からの継続の学生や、口コミで参加を希望した学生を中心に活動をした。

内容：これまでの教師主導の活動をやめて、日本語教師を目指す学生が中心となって、ゲーム(ひらがなのかるたや折り紙、伝言ゲームなど)や歌、日本語教科書の音読の指導を行った。

(4) 第4期 (1997年4月～1997年9月)

募集：学内や学生寮にポスターを掲示した他に、口コミなどでも参加学生を募集した。これまでに参加していた学生で継続した学生も数名いた。

内容：参加学生の中から企画係を募り、その学生たちを中心に、折り紙、早口言葉、伝言ゲーム、歌などの活動を行った。企画を担当した学生に対しては、活動の前後に担当の日本語教師が指導を行った。

(5) 第5期 (1997年10月～1998年3月)

募集：ポスター掲示の他に、第4期に登録した学生を中心に案内状を送付したり、「日本事情」「日本語教授法」を担当している教官に依頼して、募集を行った。

内容：第4期と同様、企画係の学生を決めて、活動案を考えた。担当の教師の指導に加えて、月1回、日本人ボランティア・チューターと担当教師のミーティングを設け、問題点や新しい企画案などの話し合いをした。その話し合いの中から、「Show and Tell」方式で、日本人学生、留学生がそれぞれ自分の国について短いスピーチをする活動案などが、新たに始まった。また担当教師が、日本人学生に対して、留学生に伝わりやすい日本語についてや、具体的な問題点の事例について、指導を行った。

(6) 第6期 (1998年4月～1998年9月)

募集：第5期と同様、ポスター掲示の他に、これまで登録していた学生に案内状を送付したり、「日本事情」「日本語教授法」を担当している教官に依頼して、募集を行った。

内容：参加している日本人学生に二人ぐらいのグループを作らせ、各グループで交替で活動を担当することにした。具体的には、折り紙、地名ゲーム、ジェスチャーゲーム、漢字神経衰弱、七夕、などを行った。また日本人学生と担当教師のミーティングも、月1回程度の割合で行い、活動案についての反省や新しい案などについて話し合った。

## II. 調査の目的と方法

### 1. 調査の目的

ボランティア・チューターの活動に参加した日本人学生に対して、アンケート調査を行い、学生の属性や参加した動機、日本語に対する意識などを探ることを目的とする。

### 2. 調査の方法

調査は、筆記アンケート方式を取り、ボランティア・チューターの活動に参加した日本人学生全員を対象に行った。ただし、この活動は正規の授業ではないこともあり、学生の出入りが多く、必ずしも全員の人数が把握できていない。また何らかの理由で記入しなかった学生、あるいは回収できなかった学生もいる。したがって、正確なアンケート回収率は出せなかったが、最終的には88名のアンケートを回収することができた。

実施方法と時期は、ボランティア・チューター活動の最初の説明会か第1回目、第2回目の活動日に調査票を配布し、原則として、その場で記入してもらい、その後回収した。

なお、調査に用いたアンケートは、資料として論文末に掲載した。

## III. 調査の結果と考察

### 1. ボランティア・チューターの活動に参加した日本人学生の属性

ボランティア・チューターとして参加する学生は、圧倒的に女性が多かった<sup>3)</sup> (表3)。また、ボランティア・チューターは、学部2年生と3年生の学生が全体の半数以上を占めており、平均年齢は20.5歳であった。学生の専門分野は、文系が4分の3を占めた。

表3 ボランティア・チューターの属性

性別	年齢	学年	専門分野	学部
男性 24人 (27.3%)	平均 20.5歳 (18歳から 28歳まで)	1年生 13人 (14.8%)	文系 67人 (76.1%)	文・語・社会 29人 (23.0%)
		2年生 21人 (23.9%)		法・経 18人 (20.5%)
		3年生 29人 (33.0%)		教育 20人 (22.7%)
		4年生 16人 (18.2%)		理 6人 (6.8%)
		修士 7人 (8.0%)		工 7人 (8.0%)
女性 64人 (72.7%)		その他 1人 (1.1%)	理系 21人 (23.9%)	医・保健 8人 (9.1%)
		不明 1人 (1.1%)		
合計 88人				

さて、これらのボランティア・チューターの属性と、表1で示した留学生の属性とを比べると、次のような特徴が見られる。

まず、性別については、留学生では男性の方が全体の70%近くを占めているのに対し、ボランティア・チューターでは、女性の方が70%以上を占めている。また年齢について、研修コースに在籍する留学生は、それぞれの国で大学の学部や大学院を終えてから、あるいは教職や研究職を中断して来日し、日本で大学院の修士課程や博士課程で学ぶために日本語を勉強している訳だが、そういった留学生たちの年齢は最も若くても21歳で、平均はおよそ29歳である。一方、ボランティア・チューターの日本人学生の平均年齢20.5歳で、留学生の平均年齢とはかなり開きがある。やむを得ないこととは言え、活動の内容や興味の対象などに食い違いが出てくることもある<sup>4)</sup>。

興味の対象ということに直接関わりがあるかどうかはわからないが、ボランティア・チューターと留学生とでは、専門分野にも違いが見られる。ボランティア・チューターの専門は文系が多く、その中でも文学、語学、史学などが多い。理工系の学生は、実験などで忙しく時間がないこと、工学部や医学部のキャンパスが離れていることなどのため、少ない。一方、留学生では、文系の学生は少なく、理工系の学生が大半を占めている。このような点からも、ボランティア・チューターの活動に工夫が必要であることがわかる。

## 2. ボランティア・チューターの参加年と継続状況

次に、ボランティア・チューターの参加年と継続状況について、表4に示した。

表4 参加年と継続の状況 (人)

参加年	すぐやめた	1期間継続	2期間以上継続	合計
1995年後期(1期)			1	1*
1996年(2.3期)	4	5	6	15
1997年前期(4期)	25	21	4	50
1997年後期(5期)	2	3	2	7
1998年前期(6期)	3	8	4	15
合計	34	37	17	88

\* 1期の合計が1人となっているが、これは1期のボランティア・チューターの合計が1人という意味ではない。1期には、ボランティア・チューターの活動形態がまだ定まっていなかったため、ボランティア・チューターとして参加した学生全員にアンケート調査をすることができなかったためである。

表4で参加年というのは、学生が初めて参加した年のことで、参加状況は、「すぐにやめた」、「1期間継続」、「2期間以上継続」の3つに分類した。なお、1期間というのは研修コースの開催期間に対応し、半年間を指す。

ここで特徴的なのは、4期のボランティア・チューターである。登録した学生の42%が1期間活動したが、2期以上継続した学生は、8%と少なかった。また、すぐやめてしまった学生は50%であった。4期には、他の期に比べて、大勢の学生がボランティア・チューターとして応募してきて、大勢の学生がすぐにやめていることがわかる( $\chi^2$ 検定,  $p < 0.1$ )<sup>5)</sup>。他の期では、それほど多くの学生が応募してはこないが、すぐにやめてしまう学生よりも、1期以上継続する学生の方が多い。この原因として考えられるのは、4期では、留学生の数が比較的多く、またこのボランティア・チューターの活動の枠組みが次第にはっきりしてきたこともあって、学内の募集の掲示を積極的にするようになったこと、また掲示したポスターに「異文化体験をしませんか」、「英語も話せます」といった文言を入れたことなどが考えられる。そのため、外国や外国人などに興味のある学生が一度に集まったが、実際にボランティア・チューターの活動に参加してみると、期待していた活動内容とは違ったために、間もなく活動に参加するのをやめたのではないかと考えられる。

なお、ボランティア・チューターが活動を継続する要因については、6.でもう一度、考察することにする。

### 3. ボランティア・チューターの志望動機とこの活動に期待すること

志望動機を選択肢で、この活動に期待することを自由記述で回答してもらった。

「留学生と交流したい」(74名)ということと、「言葉に興味がある」(54名)というのが、大きい動機になっていることがわかる(表5)。自分の所属する研究室に留学生がいったりしない限り、留学生との交流の場というのはありそうでないため、話をしてみたいという気持ちが強いのであろう。

また、「言葉に興味がある」と答えた学生のうち、最も多かったのは「英語の練習に」(26名)という回答で、「言語一般に」(21名)、「日本語」(20名)、「特定の言語」(8名)に比べると多い。

一方、「何となく」と答えた学生はほとんど皆無であったことを考えると、ボランティア・チューターの学生は、「留学生と交流する」ことや「言葉への興味」といった、確固たる動機をもって、参加してくることが窺われる。

表5 ボランティア・チューターの志望動機  
(88人中 複数回答可)

志望動機	人 (%)
言葉に興味がある	54 (61.4%)
言語一般に興味がある	21 (23.9%)
日本語に興味がある	20 (22.7%)
英語の練習	26 (29.5%)
特定の言語に興味がある	8 (9.1%)
留学生と交流したい	74 (84.1%)
自分も留学したい	21 (23.9%)
異文化体験という言葉に引かれて	25 (28.4%)
日本語の授業に興味がある	12 (13.6%)
何となく	1 (1.1%)
無回答	4 (4.5%)

ボランティア・チューターの活動に期待していることを自由記述で回答した67名のうちで、一番多いものは、「友達をつくる」ことであった(21名)(表6)。「外国文化に親しむ」(18名)「国際交流をする」(17名)がそれに次ぎ、「外国語の習得」(8名)「日本語、外国語教育への関心」(5名)はあまり多くなかった。

これらの結果から、ボランティア・チューターは外国の文化を体現している留学生と交流し、友達になりたいと考えていることがわかる。しかし、言葉に興味はあるが、ボランティア・チューターになってすぐ外国語を習得できるとは考えていない。

表6 ボランティア・チューターの活動に期待すること(自由記述) (人)

友人をつくる	外国文化に親しむ	国際交流をする	外国語の習得	日本語、語学教育への関心	漠然と	ボランティア活動への興味	その他	合計
21	18	17	8	5	3	1	5	67

#### 4. ボランティア・チューターの海外居住歴や外国人の友人の有無

海外居住歴があると答えた学生はあまり多くなく13人(16.0%)(表7)、そのほとんどは、高校や大学に入ってから1年程度の留学や、1か月程度のホームステイである。居住

国は、アメリカが最も多く、次にイギリスで、他に中国、ベルギー、メキシコなどである。

外国人の友人については、いると答えた学生が45.7%で、半分弱の学生が外国人の友人をすでに持っていることになる。外国人の友人の人数は、海外居住歴がある学生は8名ぐらいから多数と答えた者が多く、そのほかの学生は、2、3名が中心のようである。また外国人の友人の国籍については、イギリスやアメリカ、またはオーストラリアなどの英語圏が多い。

海外居住歴のある学生はなしの学生に比較し、外国人の友人がある割合が有意に高い ( $\chi^2$ 検定,  $p < 0.01$ )

表7 海外居住歴と外国人の友人の有無

		海外居住歴		合計 (%)
		ある人 (%)	ない人 (%)	
外国人の友人	ある人	11	26	37 (45.7)
	ない人	2	42	44 (54.3)
	合計	13 (16.0)	68 (84.0)	81 (100.0)

## 5. ボランティア・チューターの語学レベルや語学学習の状況

ボランティア・チューターは、自分の語学のレベルをどのように評価しているのだろうか。また、学習経験については、どのような特徴があるのだろうか。それらについてまとめたのが、表8、表9、表10である。

表8 ボランティア・チューターの語学レベルについての自己評価 (人)

ゼロか 挨拶程度	サバイバル 程度	日常会話 程度	日常会話より やや高度な 程度	かなり高度に 話し、書くことが できる程度	ネイティブ スピーカー と同じ程度	無回答	合計
6 (6.8%)	38 (43.2%)	30 (34.1%)	8 (9.1%)	1 (1.1%)	0	5 (5.7%)	88

表8によると、ボランティア・チューターは自分の語学レベルを「サバイバル程度」か「日常会話程度」と考えている学生がほとんどで、さほど語学に自信があるということではなさそうである。

3.の志望動機のところで明らかになったのは、「留学生と交流したい」と「ことばに興味がある」という動機でこのボランティア・チューターに参加する学生が多いという

ことであった。そのことと表8の結果を併せて考えてみると、学生たちは、このボランティア・チューターへの活動に参加することで、留学生と交流ができるだけでなく、あまり自信がない語学にとって役に立つかもしれないことを期待しているとも考えられる。しかし、3.でも述べているように、すぐに外国語の習得に結びつけてはいないようである。

次に表9に、語学を外国人教師に習ったことがあるかどうかについての結果を示した。

表9 外国人教師による語学教育を受けた経験 (人)

	ある	ない	無回答	合計
外国人教師による 語学教育を受けたことがあるか	57 (64.8%)	25 (28.4%)	6 (6.8%)	88

6割以上の学生が外国人教師に語学教育を受けたことがあると答えている。そのほとんどは大学での語学の授業で、英語が最も多く、他に第2外国語である中国語、ドイツ語、フランス語という回答が多かった。外国語教師による語学教育の有無は、ボランティア・チューターの志望動機や語学レベルの自己判定に影響を及ぼしていなかった。

一方、表10は、ボランティア・チューターが自ら、語学を他人に教えた経験があるか、また今後教えてみたいか、について質問した結果である。

表10 ボランティア・チューターの語学教授経験や希望 (人)

	はい	いいえ	無回答	合計
語学を教えた経験があるか	5 (5.7%)	79 (89.8%)	4 (4.5%)	88
将来、語学を教えてみたいか	44 (50.0%)	32 (36.4%)	12 (13.6%)	88
日本語などを教える方法を 習ったことがあるか	11 (12.5%)	73 (83.0%)	4 (4.5%)	88

語学を実際に教えた経験を持つボランティア・チューターは、5名であり多くない(表10)。日本語教授法などを学んだことがある学生は、それに比べるとやや増え11名であるが、これも多いとは言えない。しかし、将来、何らかの形で語学を教えてみたいと答えた学生は、半数以上であった。3.でも述べたように、ボランティア・チューター

の志望動機には「言葉への興味」が上位に挙がっていたが、単に興味があるというだけでなく、語学を教えるという仕事への志向にもつながっていると見える。

## 6. ボランティア・チューターの活動継続の要因

上にも述べたように、ボランティア・チューターは、この活動に応募してきて、1期以上継続するボランティア・チューターもいれば、すぐにやめてしまう学生もいる。ここでは、長く継続するボランティア・チューターに何か共通の属性があるのかについて、考察する。

まず、性別や学生の所属などによって、継続するかないかに違いは認められなかった。

志望動機について見てみると、2期に渡って継続したボランティア・チューターに「英語の練習」という回答が多い ( $\chi^2$ 検定とU検定,  $p < 0.1$ )。また「異文化体験という表現に引かれた」という回答も、1期、2期継続した学生に割合が有意に多い ( $\chi^2$ 検定とU検定,  $p < 0.05$ )。

その他の属性について、「外国語を教えた経験がある」と答えたボランティア・チューターにすぐやめる者はなく、1期以上継続している ( $\chi^2$ 検定とU検定,  $p < 0.05$ )。また統計的には有意ではなかったものの、2期継続した学生に、「外国語を将来教えてみたい」と答えたボランティア・チューターの割合が多い。

以上のことから考えてみると、ボランティア・チューターに応募してくる学生は、漠然と留学生と交流したいと考えている学生よりも、言葉への興味、さらには、言葉に関する仕事の経験や志向を持つ学生の方が長く継続していることが浮かび上がってくる。表現をかえれば、このボランティア・チューターの活動内容は、そういった学生の目的に合致していると言うことができる。

## 7. ボランティア・チューターの日本語観

ここでは、ボランティア・チューターが、外国人にとって日本語のどのような点が難しいと考えているのかなどについて、述べていく。

### 1) 外国人に日本語を教えることについて

まず、表11に、外国人に日本語を教えることと、外国人が日本語を習得することの難しさについて、5段階評価をした結果を示す。

表 11 日本語教授と日本語習得の難しさ (人)

	たいへん 易しい	かなり 易しい	普通	かなり 難しい	たいへん 難しい	無回答	合計	平均 *
日本語を外国人 に教えるのは	0	1 (1.1%)	17 (19.3%)	47 (53.4%)	18 (20.5%)	5 (5.7%)	88	2.5
外国人が日本語を 習得するのは	0	0	19 (21.6%)	44 (50.0%)	20 (22.7%)	5 (5.7%)	88	4.0

\* 「たいへん易しい」－1点、「かなり易しい」－2点、「普通」－3点、「かなり難しい」－4点、「たいへん難しい」－5点に換算して、その平均を出した。

これを見ると、日本語を外国人に教えることについても、外国人が日本語を習得することについても、「かなり難しい」、あるいは「たいへん難しい」を合わせると7割以上になり、ボランティア・チューターは、日本語教授や習得は難しいと考えていることがわかる。

## 2) 外国人にとっての日本語の困難度について

まず表12は、ボランティア・チューターに、日本語における「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能について、それぞれの技能がどの程度難しいと考えているかを、「たいへん易しい」「かなり易しい」「普通」「かなり難しい」「たいへん難しい」の5段階で評価してもらったものである。

表 12 外国人にとって、日本語の四技能の難しさは (人)

	たいへん 易しい	かなり 易しい	普通	かなり 難しい	たいへん 難しい	無回答	合計	平均点
聞き取りは	0	8 (9.1%)	39 (44.3%)	28 (31.8%)	8 (9.1%)	5 (5.7%)	88	3.4
話すのは	0	5 (5.7%)	42 (47.7%)	26 (29.5%)	10 (11.4%)	5 (5.7%)	88	3.5
読解は	0	1 (1.1%)	18 (20.5%)	42 (47.7%)	22 (25.0%)	5 (5.7%)	88	4.0
書くのは	0	1 (1.1%)	14 (15.9%)	38 (43.2%)	30 (34.1%)	5 (5.7%)	88	4.2

四技能のうちでは、「聞く」と「話す」に関しては、「普通」と答えている学生が一番多い。それに対して、「読む」と「書く」については、「かなり難しい」と答えている学

生が多く、さらに「たいへん難しい」と答えた学生も多い。

また、5段階評価の「たいへん易しい」から「たいへん難しい」まで1～5の点数を与えて集計すると、各技能の平均点は、「聞く」(3.4点)が最も低く、「書く」(4.2点)が最も高いという結果になった。

本来、ある言語の特徴や難易度というものは、相対的な問題であり、断定することはできない。しかし、一般的に、日本語では発音は比較的存在する音素の数が少なく(乾, 1998)、その分単純だと言われている。また文字については、ひらがな、カタカナ、漢字と3種類の文字が存在するために、複雑な体系を持つと言われている。表12や、各技能の平均点を見てみると、ボランティア・チューターが考える日本語の4技能の難しさも、これに対応しているようである。

次に、ボランティア・チューターの考える日本語の難しさをもう少し細かい項目で知るために、難しいと考えられる項目を自由記述で答えてもらう一方、発音、文法、語彙、漢字、敬語、会話の流れの6項目について、5段階の難易度で回答してもらった。

自由記述では72名から回答を得、「読み書きを含む漢字」を挙げた者が一番多く29名いた(表13)。日本語には「ひらがな、カタカナ、漢字の3種類がある」ことを指摘したものが13名おり、漢字を含めると、半数以上のボランティア・チューターが文字の問題を日本語学習の困難な点として挙げたことになる。続いて、敬語(16名)、助詞(12名)が多かった。

表13 外国人にとって、日本語学習の困難な点(自由記述) (人)

漢字 (読み書き)	敬語	文字 (3種ある)	助詞	文法	発音	会話	言外の意味 など	その他	無回答
29	16	13	12	9	6	5	5	26	16

5段階の難易度で回答してもらった6項目のうち、敬語、漢字を難しいと考えるものが多く、「大変難しい」という回答が最も多く、「かなり難しい」を加えると、ほとんどすべての回答がこの中に含まれた(表14)。発音や会話の流れについては、「普通」という回答が最多であり、わずかであるが、「大変易しい」「かなり易しい」という回答もあった。これは、表12で見たように、「聞く」「話す」という技能について、ボランティア・チューターはさほど難しいと捉えていないことと対応している。また、「文法」や「語彙」については、「普通」と「かなり難しい」という回答がほとんどを占めている。

平均点で見ても、「漢字」と「敬語」が高く、反対に「発音」は最も易しいという評

価を受けていることになる。

表 14 外国人にとって、日本語の難しさは (人)

	たいへん 易しい	かなり 易しい	普通	かなり 難しい	たいへん 難しい	無回答	合計	平均点
発音は	3 (3.4%)	8 (9.1%)	43 (48.9%)	25 (28.4%)	3 (3.4%)	6 (6.8%)	88	3.2
文法は	0	4 (4.5%)	30 (34.1%)	31 (35.2%)	18 (20.5%)	5 (5.7%)	88	3.7
語彙は	0	0	31 (35.2%)	37 (42.0%)	15 (17.0%)	5 (5.7%)	88	3.8
漢字は	0	0	2 (2.3%)	36 (40.9%)	45 (51.1%)	5 (5.7%)	88	4.5
敬語は	0	0	3 (3.4%)	30 (34.1%)	50 (56.8%)	5 (5.7%)	88	4.6
会話の 流れは	1 (1.1%)	3 (3.4%)	52 (59.1%)	21 (23.9%)	6 (6.8%)	5 (5.7%)	88	3.3

### 3) 外国人と話すときに気をつけなければならない点について

自由記述で、71名から回答を得た(表15)。「はっきり話す」ことに気をつけている者が一番多く、29名であった。「ゆっくり話す」(24名)、「相手のレベルに合わせる」(15名)、「正しい日本語(共通語)で話す」(14名)が、それに続いた。「方言で話さない」という者が8名あったが、共通語を使うことと同じことを意味している。

表 15 外国人と話すときに気をつけている点(自由記述) (人)

はっきり 話す	ゆっくり 話す	相手のレベル に合わせる	正しい日本語 を使う	方言を 使わない	その他
29	24	15	14	8	14

## IV. まとめ

以上、ボランティア・チューターとして参加した学生のアンケート調査の結果について述べてきた。この結果から、この活動に参加しているボランティア・チューターの特徴として、次のようなことがわかった。

- (1) ボランティア・チューターとして参加しているのは、女性が圧倒的に多い。また専門分野としては、文系が多い。
- (2) 留学生と交流したいというような漠然とした動機よりも、すでに語学を教えた経験があるとか、将来教えたいなどの具体的なイメージや目的を持っている学生の方が、ボランティア・チューターの活動が長続きする傾向がある。
- (3) ボランティア・チューターは、外国人にとって、日本語の発音や会話などはさほど難しくないと考えているが、文字や敬語については難しいと考えている。ボランティア・チューターは志望動機に「言葉に興味がある」と答えている学生が多いが、むやみに日本語が外国人にとって難しいと考えている訳ではなく、他の言語とも比較した上で、日本語を客観的に捉えているらしいことが窺われる。

## V. おわりに

今後は、ボランティア・チューターとして参加した学生に対して、この活動に参加したことが学生生活の中でどのような意味を持ったのかについて、追跡調査をしたい。また、本稿で明らかになったことや、追跡調査の結果を参考にして、この活動を、留学生にとってだけでなく、ボランティア・チューターとして参加している日本人学生にとっても有益なものとするよう、内容を改善していきたいと考えている。

### 【謝 辞】

このボランティア・チューターの活動は、現在は三浦香苗教授の指導のもと、深澤が主に担当しているが、これまでに何人かの非常勤講師が担当してきた。特に、古本裕子非常勤講師と早川幸子非常勤講師は、ボランティア・チューターに対するアンケートの原案作成や調査の一部を担当され、今回の論文にそれらを使用することを快諾して下さった。深く感謝の意を表したい。

### 【注】

- 1) 金沢大学留学生センター日本語研修コースは、第1期を1995年10月から開講し、現在の第7期に至るまで、6か月間の大学院予備教育としての日本語教育を行っている(1998年11月現在)。
- 2) 各期の活動の詳細は、金沢大学留学生センター日本語研修コース報告書(1996、1997、1998)参照のこと。
- 3) 金沢大学全体の学生数は、1998年現在、大学院生も含めて10243人である。そのうち女子学生は3252人で全体の3分の1にあたる(金沢大学広報資料 1998年)。そのことから考えても、このボランティア・チューターに参加する女子学生の比率は大きいということがわかる。
- 4) ボランティア・チューターだけのミーティングで、話をしていると留学生の方がずっと大人に思われて、ギャップを感じることもある、という意見が数度出た。
- 5) ここでの検定に1期は含めていない。

【参考文献】

- 乾 秀行 (1998) 「最も音素が少ない言語」『言語』5月号 (第27巻 第5号) pp.22-25, 大修館書店
- 金沢大学庶務部庶務課 (1998年) 『データで見る金沢大学 1998秋～1999夏用』(金沢大学広報資料No. 16)
- 金沢大学留学生センター (1996) 「課外個人指導」『日本語研修コース 第1期報告書』 p.24
- 金沢大学留学生センター (1997) 「日本人学生との交流」『日本語研修コース 平成8年度報告書 (第3期・第4期)』 pp.22-23
- 金沢大学留学生センター (1998) 「日本事情－日本人ボランティア・チューターとの時間－」『日本語研修コース 平成9年度報告書 (第4期・第5期)』 pp.23-25

## A Study on Japanese Volunteer Tutors Helping International Students

Nozomi Fukasawa and Takao Okazawa

**ABSTRACT** Japanese students have been helping international students learn Japanese in the intensive course for beginners at Kanazawa University as volunteer tutors. A questionnaire was circulated among these volunteer tutors in order to clarify their personal characteristics, motivations, and views on Japanese as a foreign language. Three main points became clear from the survey: (1) the percentage of women students and students majoring in humanities are high; (2) students who have experience teaching languages, or who intend to become language teachers tend to continue participating as volunteer tutors; (3) volunteer tutors do not think that Japanese pronunciation and conversation are difficult, but they do believe that Chinese characters and honorific expressions are difficult for international students to learn.

(資料)

金沢大学留学生センター  
日本人学生ボランティア・チューター アンケート

留学生センターのボランティア・チューターに応募していただき、ありがとうございます。  
今期の活動の参考のために、アンケートにご協力お願いいたします。また、ご意見や感想など何でも  
おきかせください。

氏名 \_\_\_\_\_  
学部、専攻、学年 \_\_\_\_\_ 年

1. 出身地はどこですか。  
1-1 ( ) 県 1-2 ( ) 市
2. ボランティア・チューターに応募した動機は何ですか。○をつけてください。(複数回答可)  
2a ( ) 言葉に興味がある  
2a-1 ( ) 言語一般に  
2a-2 ( ) 日本語・日本語を教えることに  
2a-3 ( ) 特定の言語に ( ) 語)  
2a-4 ( ) 英語の練習に  
2b ( ) 留学生と交流したい  
2c ( ) 自分も留学したい  
2d ( ) 「異文化体験」という表現に心ひかれて  
2e ( ) このコースの日本語の授業を見てみたいと思って  
2f ( ) 何となく  
2g ( ) その他
3. 外国語ができる人は、自分のレベルを自己判定して○をつけてください。  
3-1 ( ) 語  
3-2 レベル ( ) (下の5～0から選んでください)

5: 普通のネイティブスピーカーと同じ程度  
4: かなり高度な内容について話し、書くことができる  
3: 日常会話より少し高度な程度ならできる  
2: 日常会話程度  
1: サバイバル程度  
0: ゼロか、「こんちちわ」や「ありがとう」が言えるだけ

4. 海外に住んだ経験はありますか。  
4-a ( ) はい 4-b 国名 ( ) 4-c 期間 ( ) か月  
( ) いいえ
5. 外国人の友人はいますか。  
5-a ( ) はい 5-b 国名 ( ) 国人) 5-c 人数 ( ) 人  
( ) いいえ

6. 外国人の先生に外国語を習ったことがありますか。

6-a ( ) はい      6-b 言語名 (                      語)      6-c 期間 (                      か月)  
(                      ) いいえ

7. 外国語(外国語としての日本語を含む)を教えた経験がありますか。

7-a ( ) はい      7-b 言語名 (                      語)      7-c 期間 (                      か月)  
7-d 頻度(週に                      回)      7-e 生徒の国 (                      )  
7-f 生徒のレベル ( 1.初級      2.中級      3.上級 )  
(                      ) いいえ

8. 将来、外国語(日本語を含む)を教えてみたいですか。

8-a ( ) はい      8-b 言語名 (                      語)  
8-c ( 1.パートタイム      2.フルタイムで本職として )  
(                      ) いいえ

9. 日本語を教える方法などを勉強したことがありますか。

(                      ) はい  
(                      ) いいえ

以下は、外国語としての日本語について、現時点であなたがどう思うかを答えてください。

1から5までの数字で答えてください。

1. 大変やさしい      2. かなりやさしい      3. 普通      4. かなり難しい      5. 大変難しい
---

10. 日本語を外国人に教えるのは、一般的に言って (                      )

11. 日本語の習得は外国人にとって (                      )

12. 外国人にとって、日本語技能の中で

12-1 聞き取りは? (                      )

12-2 話すのは? (                      )

12-3 読解は? (                      )

12-4 書くのは? (                      )

13. 外国人にとって

13-1 発音は(イントネーションも含む)? (                      )

13-2 文法は? (                      )

13-3 語彙は? (                      )

13-4 漢字は? (                      )

13-5 敬語表現は? (                      )

13-6 会話の流れは? (                      )

14. 外国人にとって日本語学習の際に、最も困難な点は何だと思えますか。

15. 外国人と日本語で話すときに、どんなことに気をつけるべきだと思えますか。

16. このボランティアの活動を通じて、何かを得ることを期待していますか。それは何ですか。  
もしよければ書いてください。

17. この活動の実施の方法について希望があれば書いてください。